

令和3年12月14日(火)

【第22回北陸地域連携プラットフォーム】

閉会挨拶

座長 中村 信一

本日は、最初に内閣府の谷本参事官から、「地域の経済2020-2021 一地方への新たな人の流れの創出に向けて」と題して、非常にたくさんのデータを示していただき、ありがとうございました。

続きまして、日本政策投資銀行の板橋北陸支店長から、「テレワークの進展と地域創生」ということで、谷本参事官と同様、コロナ感染と絡めて御説明いただきました。

次いで、北陸財務局から、「テレワークの進展等を背景とした北陸地域への新たな人の流れについて」と題して、鈴木総務管理官に御説明いただきました。

いずれもテレワークの話が中心だったと思います。また、各メンバーの方々からは、テレワークにつきまして、現実に皆様方が遭遇している課題、また実際に取り組まれている内容について、御説明、御意見がありました。大事なことは、やはり社会的変化をどのように国に提示していくか、ということかと思います。

成功例のモデルが集まっていけばいいんですが、各々の地域、各々の会社について、特徴を掴んで適応していくことが重要だという御指摘があったかと思います。

私自身は、文明の転換、パラダイムシフトが、コロナ感染を契機としてさらに大きく舵を切られた、方向性が変わったと思っております。

谷本参事官が御説明されたデータを見ますと、東京の若い人の50%が地方へ行くことに対して関心があるということでもあります。そういう多様な働き方ができるような仕組みづくりに、社会全体で取り組む時期、これはコロナ感染やテレワークのみならず、全体として新たな若い人の多様性を受け入れるような社会を構築していく時代ではないかと思った次第でございます。

本日はどうもありがとうございました。

以上